

「美術」の語史 ～「美術」という日本語はいつ誕生したか？  
当初のそれは何を指していたか？

女子美術大学  
石井 拓洋  
takuyo.ishii (a) gmail.com

2019-06-04

# 「美術」の語史 ～「美術」という日本語はいつ誕生したか？ 当初のそれは何を指していたか？

下記出典はすべて以下

高階秀爾「美術」、『ブリタニカ国際大百科事典 16 ノウシ-ピョ 』、フランク・B・ギブニー (編集・発行)、TBSブリタニカ、1974年初版、744頁。  
ただし、記号「※」以下の記述は石井による補足や考え。

- ・「『美術』は明治期になって初めて使われるようになったものである」
- ・「英語からの翻訳であり、この訳語を考えたのは大鳥圭介 (※西洋軍学者、官僚、外交官) であったとされる」  
(※ 英語とは “ Fine Art ” )
- ・日本で初めて『美術』の語が登場するのは、明治5年 (1872) 、国民へのウィーン万博への出品勧誘のための官令。
- ・「音楽画学像ヲ作ルノ術詩学等ヲ美術ト云フ」  
(※ 音楽、絵や像をつくる技術的仕事、詩を作ることなどを美術という)
- ・「わざわざこのような説明を加えるくらいであるから、当時『美術』が耳慣れない言葉であったに違いない」

# 「美術」の語史 ～「美術」という日本語はいつ誕生したか？ 当初のそれは何を指していたか？

下記出典はすべて以下

高階秀爾「美術」、『ブリタニカ国際大百科事典 16 ノウシ-ピョ 』、フランク・B・ギブニー (編集・発行)、TBSブリタニカ、1974年初版、744頁。

- ・「音楽画学像ヲ作ルノ術詩学等ヲ美術ト云フ」 (※ 明治五年 1872, 官令)  
(※ 音楽、絵や像をつくる技術的仕事、詩を作ることなどを美術という)
- ・「興味深いのは、右に引用した官令の注記でも明らかなように、  
当初は『美術』は、『音楽』や『詩学』なども含めた『芸術』全体を意味するものと解されていたことである」
- ・「このこと (※『美術』が『芸術』全体を意味していたこと) は、十九世紀後半において、英語の Fine Art が  
きわめて広い意味に用いられていたことと対応するであろう」
- ・「しかし、最初に登場してから五年後の一八七七 (明治十) 年には、すでに『美術』は今日とほぼ同じ意味  
をもつものになっている」
- ・「『美術とは、図画彫刻模型家屋の装飾等の工芸を云うなり、英語にて之をファインアートと称す、凡そ  
美飾美観ありて人目を娛ましむる物を作る術なり、、、美術の字穩当ならずと雖も (※いえども)  
今姑く (※今しばらく) 之を襲用す」 (大鳥圭介「日本美術」、『工業』第10号、1877年)

※「美術の字は、無理がなく自然だというわけではないが、とりあえずこの語を使ってみたい」

# 「美術」の語史 ～「美術」という日本語はいつ誕生したか？ 当初のそれは何を指していたか？

・「美術の字穩当ならずと雖も(※いえども)今姑く(※今しばらく)之を襲用す」  
(大鳥圭介「日本美術」、『工業』第10号、1877年)

※「美術の字は、無理がなく自然だというわけではないが、とりあえずこの語を使ってみよう」  
(大鳥圭介。高階によると日本で「美術」の語を初めて創出し、使用した人。1877年の言及。)

※言葉は、社会の状況や文化、時代の価値観、政治性を背景として、  
新たに生み出されたり、意味が変化したりする。

「美術」と「音楽」の語が存在するから、その間に普遍的区別があるように見えるが、しかし、その区別を自明視することは、藝術の本来の可能性を限定するのではないか。

たとえば、日本にかぎってみても、2つの語が明確にあらわれるのは、  
すくなくとも明治期以降、現在の約100年前からにすぎず、しかも当初、「美術」の語は、  
きわめて頼りなく使用されたものであったことも、頭の片隅にとどめておきたい。